

# 終わりの日

## マタイの福音書24:4~14



そこで、イエスは彼らに答えて言われた。

「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに合わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

また、そのときは、人々が大ぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。

この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

## その日は必ず来る

しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。 (ルカ21:36)

## その日はだれも知らない

ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

(マタイ24:36)

終わりの日は、神さましか知らない。今日かも知れない。しかし、あわてないないようにしなさいと聖書は言っている。世の終わりは確実に近づいている。

## 神を認めない者には最悪の日となる

ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。 (ローマ2:5)

今は恵みの時、今は救いの日であるが、イエスが地上再臨される終わりの日には、神を認めない者には、最悪の日となる。

あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。

(マタイ24:3)

1. にせキリストの出現
2. 戦争と戦争のうわさ
3. 疫病 (ルカ21章) や飢きん
4. 地震
5. 迫害
6. 教会の背教と腐敗
7. 全世界への福音宣教

## 信じる者にとっては喜びの日となる

わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。 (ヨハネ6:39)

終わりの日が近づくと、生みの苦しみがあがるが、キリストを信じる者にとって、終わりの日はキリストの統治が始まる喜びの日となる。

## あわてないようにしなさい

たとえ明日、世界が終わりになろうとも、私はリンゴの木を植える。(マルチン・ルター)

## イスラエルの再集合

あなたの神、主は、あなたを捕われの身から帰らせ、あなたをあわれみ、あなたの神、主がそこへ散らしたすべての国々の民の中から、あなたを再び、集める。(申命記30:3)

1948年5月14日に、ユダヤ人は、パレスチナの一部をイスラエルの独立国と宣言した。70年にエルサレムが陥落し、ユダヤ人の離散(ディアスポラ)が始まった。それから2000年近く、ユダヤ人が再び約束の地に帰ることなど、絶対にあり得ないと誰もが考えていた。しかし、ヘルツェルらの働きで、イスラエルは結局、建国に成功した。世界史上、国を失い離散した民が国を再建した例は他にない。

また、死語となっていたヘブライ語も、ベンエフダなどの働きで復興。一度、死語となり、何百年も日常語としては使われなかった言葉が再び使われるようになった例も、他にない。

さらに驚くべきことは、これらの奇跡が起こることが、二千年以上も前に書かれた聖書にはつきりと予告されていた。それは、ユダヤ人が不信仰の罰を受けて世界に離散するという預言以上に、神の約束の確かさを示す証拠だと言わねばならない。

## メシアニック・ジューの出現

ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。..... あなたがたに告げます。

『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

(マタイ23:37~39)

長年にわたってクリスチャンがユダヤ人を迫害し、ユダヤ教もそれに応じてキリスト教を敵視する教えを説いてきたため、ユダヤ人がイエスを信じることは、絶対にあり得ないことと考えられる時代が2千年近くも続いてきた。

1960年代になってから超自然的な神からの啓示によってイエス・キリストを受け入れるユダヤ人が、各地に出現した。このことは、

### 1. キリストの体である教会の完成

「異邦人よ。主の民とともに喜べ」ローマ15:10  
「新しいひとりの人」エペソ2:15

### 2. 聖書理解の深まり (ヘブル的視点の回復)

### 3. イエス・キリストの再臨の条件

今や多くのメシアニック・ジューが、そのヘブライ語で「ハルーフ・ハバー・ベシエム・アドナイ」『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』という賛美(いくつか曲がある)を歌う時代になっている。これはメシアニック・ジューの出現は、主イエスの再臨に近い印なのである。

## 獣の刻印

また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。(黙示録13:17)

黙示録には、地からの獣(反キリスト)は、すべての者に「しるし」か「数」を付けさせ、その無い者はだれも売ったり買ったりできないと書いてある。

そのように人類を支配するためには、それらの全体的な支配を処理できる機構が、存在しなければならない。世界の半分が全体主義政体によって支配されており、ほとんどの身分証明が「数字」化され、経済的取引の記録がコンピューター化された今日の状況は、獣の出現のための舞台がととのえられているといえよう。

預言の多くの研究者は、今日の状況を、終わりの日の「しるし」と見ている。